

ブナの里



ふたば ほんよう
ブナの双葉と本葉が芽吹いた添別ブナ林の春の風景

写真提供：黒松内町ブナセンター

- | | | |
|-------------------------|-------|-------|
| ◇ 2023年度 法人事業計画・資金収支予算書 | | P2~5 |
| ◇ 法人各事業所の2023年度事業計画 | | P5~10 |
| ◇ 2023年度 辞令交付式・新任職員研修 | | P11 |

2023年度事業計画

社会福祉法人黒松内つくし園 理事長 大代貴輝

1 事業方針

ガバナンス強化や事業運営の透明性向上、財務規律の強化、地域での公益的取組の充実などが社会福祉法人に求められています。制度に対応した組織作りと内部統制・本部機能強化に取り組んできましたが、事務ＩＣＴ化と本部集中化をさらに推進してまいります。

本年度は、新たな中期事業計画に基づいた経営ビジョンを共有して、法人運営を行つてまいります。また、法人事業の再編・統廃合などを含めた、経営の健全化へ向けた事業再構築への取り組みを進めてまいります。

そして、地域福祉向上と社会貢献、SDGsへの取り組みを進め、社会福祉法人としての役割と使命を果たすため、役職員一丸となつて事業運営に取り組んでまいります。

り組みます。

*法人基本理念・倫理綱領に沿った事業展開を行う。

*利用者・職員・地域住民の幸せを実現するため事業を行う。

*法人一体経営への取り組みや本部機能強化（ＩＣＴ化）を推進する。

*法人事業再編・統廃合など健全経営に向けた検討・実施を進める。

*中長期経営ビジョンを法人全体で共有して事業運営を行う。

2 本年度の運営方針と取り組み

(1)利用者主体の自立支援に向けた良質なサービスを提供し、施設サービス・利用者満足度の向上を図る。

(2)2023年度からの5ヶ年中期事業計画を各事業所・役職員が共にして、健全経営へ向けた検討をさらに進める。

(3)D & Iの推進とSDGsへの取り組みをさらに進める。

(4)地域福祉の推進と社会貢献事業への取り組みを継続して実施する。

3 本年度の重点目標（抜粋）

(1)サービスの質の向上

①基本理念と法人倫理綱領のもと「利用者主体」「自立支援」に取り組みを着実に行つていく。

②既知安地区の経営再建へ向けた事業再編計画を最重要課題とした事業再編計画を実施する。

③虐待防止、不適切な支援防止の徹底と発生件数ゼロに向けて、

していく。

(4)旧緑ヶ丘ハイツ建物の解体と土地活用方法について、黒松内町と協議を行いながら方針を決定し、事業実施へ向けた取り組みを行う。

(5)人材の確保・定着・育成ための取り組みを強化し、働きやすい職場環境の提供と職員への待遇改善への取り組みをさらに進めていく。

(6)法人一体運営へ向けた本部機能強化・事務ＩＣＴ化への取り組みを具体化し、導入・実施へ向けた検討をさらに進める。

(7)D & Iの推進とSDGsへの取り組みをさらに進める。

(8)地域福祉の推進と社会貢献事業への取り組みを継続して実施する。

各事業所で研修、会議等で職員への周知、教育強化と意識向上・啓発を図る。

(2)健全経営へ向けた取り組み

①2023年4月から2028年3月までの5ヶ年中期事業計画のもと、中長期ビジョン・経営方針を役職員で共有し取り組んでいく。

②報酬単価減少や電気・燃料費その他物価高騰等による支出増加により、社会福祉事業を取り巻く経営環境が厳しい中、健全な法人運営に向けての経営努力を実行する。

③中長期事業方針に基づいた施設整備計画と事業所の今後の展望等を再検討し、法人各事業所や関係機関等と協議しながら取り組んでいく。

④介護保険・障害者総合支援法、児童・保育事業の制度に沿った事業運営体制の整備を計画的に実行する。

(2)本年度の重点目標（抜粋）

①中期事業計画に基づいた利用定員の見直しと適正人員配置、施設の活用方法等について検討し、健全経営に向けた取り組み

②虐待防止、不適切な支援防止の徹底と発生件数ゼロに向けて、

を行う。

②俱知安地区再編を進めてきたが、事業の廃止・事業所統廃合等を視野に、今年度中に俱知安就労・在宅全事業の方向性を決定していく。

③泊村むつみ荘の指定管理者更新の契約を3月に締結。2022年3月までの5ヶ年の事業運営・管理、健全経営へ向けた取り組みを行っていく。

④緑ヶ丘ハイツの利用稼働率・収益率の向上と、適正な人員配置での健全経営に向けた課題の検討を継続的に行う。

⑤老人福祉施設等の利用者確保と経営の見通しが非常に厳しいため、法人全体での定員の在り方や今後の運営方針を、町村・各関係機関と協議しながら事業再編を進めていく。

④人材確保・定着と働きやすい職場づくり
①人材センターによる学校訪問、採用イベントへの出展、オンライン説明会、大学内単独説明会等の対応とホームページ他での発信力を強化し、人材確保をさらに進める。

②マイナビ等人材派遣会社を通じた人材募集を継続。新卒者及び経験者採用・確保へ向けて、SNSや自社サイトを活用した情報発信を行い、採用活動を強化する。

③2023年4月新卒採用8名（大卒4名・短大1名・専門学校1名・高卒2名）、既卒者4名の計12名を確保。
④昨年度採用予定であったインドネシア人特定技能8名が、入国遅れで今年度5月以降着任となる。

⑤法人各事業所での職場環境・研修体制強化と福利厚生等のサポートを充実させ、働きやすい職場づくりの推進を行う。

⑥次世代育成支援対策推進法における一般事業主行動計画を策定。1、男性職員の出産休暇（特別休暇）の取得率を30%以上にする。2、土曜日学童保育の利用児童数を、年100名以上（延べ人数）にする。

⑦職場の人権・働きがい、環境への配慮、リサイクル推進などドネシア人特定技能8名が、入国遅れで今年度5月以降着任となる。

⑧法人各事業所での職場環境・研修体制強化と福利厚生等のサポートを充実させ、働きやすい職場づくりの推進を行う。

⑨法人各事業所での職場環境・研修体制強化と福利厚生等のサポートを充実させ、働きやすい職場づくりの推進を行う。

⑩法人各事業所での職場環境・研修体制強化と福利厚生等のサポートを充実させ、働きやすい職場づくりの推進を行う。

⑪法人各事業所での職場環境・研修体制強化と福利厚生等のサポートを充実させ、働きやすい職場づくりの推進を行う。

①男女不平等・女性差別やハラスメントなどを排除したジエンダーレスへの取り組みを具現化していく。

②D&Iを進め、多様な人材の活躍を促す能力開発、評価の仕組みづくりを検討し、変化を促す組織風土づくりを推進していく。

③SDGsへの取り組み
・職場の人権・働きがい、環境への配慮、リサイクル推進など
・職員の交流を図る。

④人事・給与システムの新規導入・変更への検討を加速させ、早期導入を行っていく。

⑦地域貢献事業の推進
①法人各事業所で社会貢献事業基本要綱をもとに公益的取組を実施する。また、地域福祉のさらなる推進と地域住民・利用者との取組みを、法人・全事業所で役職員が共通認識を持つて推進する。
②黒松内町・俱知安町・京極町・泊村での地域貢献事業の実施を継続し、地域住民と施設利用者・職員との交流を深める。

③外国人職員と地域の交流を深め、関係機関・地域住民の協力をいただきながら多文化共生社会の実現を目指すための取り組みを行う。

④一時保護委託の受入れ、土曜学童保育、生きがいデイサービス事業、配食サービス、奨学資金支給制度等の社会貢献事業を継続していく。

⑤ボランティア・インナーシップ・施設見学、就労体験・福祉実習・利用体験等の受け入れを実施する。

①法人各事業所で社会貢献事業基本要綱をもとに公益的取組を実施する。また、地域福祉のさらなる推進と地域住民・利用者との取組みを、法人・全事業所で役職員が共通認識を持つて推進する。
②黒松内町・俱知安町・京極町・泊村での地域貢献事業の実施を継続し、地域住民と施設利用者・職員との交流を深める。

③外国人職員と地域の交流を深め、関係機関・地域住民の協力をいただきながら多文化共生社会の実現を目指すための取り組みを行う。

見据えた経理事務ICT化の導入を行っていく。

2023年度 法人全体資金収支予算書

(自)2023年4月1日～(至)2024年3月31日

社会福祉法人黒松内つくし園

(千円)

区分	科 目	本年度予算額	前年度予算額	差引増減額
事業活動による収支	介護保険事業収入	1,412,118	1,379,527	32,591
	老人福祉事業収入	313,641	335,673	△ 22,032
	児童福祉事業収入	425,508	442,708	△ 17,200
	保育事業収入	102,324	102,671	△ 347
	就労支援事業収入	40,631	44,358	△ 3,727
	障害福祉サービス等事業収入	701,550	731,929	△ 30,379
	医療事業収入	0	1,796	△ 1,796
	その他の事業収入	29,229	27,454	1,775
	経常経費寄附金収入	3,994	11,537	△ 7,543
	受取利息配当金収入	8,575	8,765	△ 190
	その他の収入	33,794	49,642	△ 15,848
	事業活動収入計(1)	3,071,364	3,136,060	△ 64,696
	人件費支出	1,811,054	1,855,571	△ 44,517
	事業費支出	695,819	681,291	14,528
	事務費支出	412,108	414,704	△ 2,596
	就労支援事業支出	40,631	44,358	△ 3,727
	利用者負担軽減額	8,380	8,103	277
施設整備等による収支	支払利息支出	5,329	7,100	△ 1,771
	その他の支出	27,650	28,382	△ 732
	事業活動支出計(2)	3,000,971	3,039,509	△ 38,538
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	70,393	96,551	△ 26,158
	施設整備等補助金収入	14,268	79,811	△ 65,543
	施設整備等寄附金収入	4,000	3,900	100
	設備資金借入金収入	0	0	0
	固定資産売却収入	0	25	△ 25
	その他の施設整備による収入	0	0	0
	施設整備等収入計(4)	18,268	83,736	△ 65,468
その他の活動による収支	設備資金借入金元金償還支出	55,282	100,582	△ 45,300
	固定資産取得支出	29,600	41,738	△ 12,138
	固定資産除却・廃棄支出	0	3	△ 3
	ファイナンス・リース債務の返済支出	13,503	13,144	359
	その他の施設整備等による支出	0	0	0
	施設整備等支出計(5)	98,385	155,467	△ 57,082
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 80,117	△ 71,731	△ 8,386
	長期運営資金借入金収入	0	100,000	△ 100,000
	投資有価証券売却収入	0	0	0
	積立資産取崩収入	62,255	38,834	23,421
その他の活動による収支	その他の活動による収入	0	0	0
	その他の活動収入計(7)	62,255	138,834	△ 76,579
	長期運営資金借入金元金償還支出	4,530	4,530	0
	投資有価証券取得支出	0	0	0
	積立資産支出	43,511	153,946	△ 110,435
	その他の活動による支出	0	0	0
	その他の活動支出計(8)	48,041	158,476	△ 110,435
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	14,214	△ 19,642	33,856
	予備費支出(10)	3,000	1,000	2,000
	当期資金収支差額(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	1,490	4,178	△ 2,688
	前期末支払資金残高(12)	736,495	732,317	4,178
	当期末支払資金残高(11)+(12)	737,985	736,495	1,490

(福)黒松内つくし園各事業所 2023年度事業計画

「新たな体制でつくし園創立の理念を継承」

「黒松内つくし園」



北海道においては、児童相談所に寄せられた相談件数は前年度の件数を下回つたものの全国における相談件数はコロナウイルス感染症の猛威が続く中であつても増加しており、虐待件数についても増加の一途を辿っています。そのような状況下、国の方針として子ども家庭庁が新たに設立され、子育てや若者世代への支援を強化する事を柱とした骨太の方針で子ども予算の倍増に向けた道筋を示す事となり、令和2年3月に「社会的養育推進計画」が策定された事と合わせて施設機能強化も求められています。このようない動向の中、今年度は岡久前施設長が定年退職の為、新たな体制となり当園にとつて大きな分岐点となります。

令和3・4年度に小規模化に向けて2年連続での定員変更を行い現在は定員70名ですが、安定経営の確保に向け今まで定員の変更はせず入所人員の確保に努め、

関係機関との連携や実習生への積極的なアプローチ、各学校へボランティア参加の案内をする等で職員確保に努め、永年勤続できる職場づくりや人材育成の為の組織体制の見直しを図つていただき、コロナ対策で主流となつたオンライン活用やライブ配信授業の環境の整備を行います。児童の支援では権利擁護の侵害が起きない様、園内研修の強化を継続して行い、苦情解決・意見箱・子ども会アンケート等を通して支援向上に努め、全職員が同じ意識で取り組んでいくとともに毎月の振り返りを継続し、児童が安全・安心な生活を送れる様に支援をします。

「子どもは私たちの未来」

「認定こども園黒松内保育園」

黒松内町唯一の就学前施設として子ども達を養護・保育し、教育保育との両面の機能を生かし、認定こども園（保育所型）の役割を担い、個別の発達に応じ「10の姿」を目指し、自発性を大切にする保育をこれまで以上に進めます。

◎今年度の重点目標

1. 保育指針・幼稚園指導要領・保育要領に則った保育課程のもと保育実践を進めます。
2. 感染予防には、園児の生活保障が出来るように安心安全な対策を推進します。
3. 黒松内町の「人・物・自然」により良い環境を生かしながら各方面との連携を行い、子どもの育ちのために生かしていきます。
4. 職員にとって働く意義を持ち働きやすい職場になるよう努め業務改善ICT化を進めます。人材育成には、web研修を取り入れ職員間で共有し、質を高めて行きます。
5. 黒松内町、小学校等関係機関と幼保小連携において、小学校探検・参観・定期的会議等を設けて交流を図ります。
6. 定着している10項目の社会貢献を継続し、園で取り組める視点を持ち推進します。
7. 修繕は、調理トイレ・床を行い、調理器具等購入後10年経過しているため故障を想定し予算化します。駐車場の補装工事を実施します。
8. 認定こども園に併設している「支援センター」一時預かり」は、子育て支援の役割を十分に果たせるように関係機関と連携を深め、広くご利用頂けるよう保護者の意見を取り入れるよう保護者の意見を取



「心を大切に喜びや生きがいを共感でき、安心安全な生活の場を目指す」 ～緑ヶ丘老人ホーム～

施設全体の長所や機能を最大限に生かした運営を進め、全職員が一致団結し邁進してまいります。常に一人ひとりの気持ちを大切に、安心安全を基に一つ一つの意義を追求し質及びサービス向上に努めます。また、措置利用者及び職員確保、日々の経費等の削減に取り組みます。調理部門については、外部委託になり一年を経過。日頃より業者とも連携を密にし、利用者の方々の満足度が向上するように努めます。

一方、拠点内の在宅福祉部門の通所事業、訪問事業、居宅支援事業所においては、年度途中で一部再編し立て直す事業を予定していますが、基本姿勢は変わらず今まで通りです。地域の高齢者の方々が安心して住み慣れた自宅で一日でも長く生活できるような支援を目標に、利用者・ご家族から常に頼りにされる事業所として位置付けられるよう研鑽致します。また、訪問事業の稼働率や収支、町内高齢者の状況を鑑みながら臨機応変に事業展開できるよう努めます。



- ◎今年度の重点目標
 - 1、一般型特定施設の継続と稼働率向上に努めます。
 - 2、調理部門の外部委託による食事の安定供給に努めます。
 - 3、職員の円滑なコミュニケーション、より良い職場環境への改善を図り、絆を大切に施設形態に努めます。
 - 4、職員一人ひとりが組織の活性化と経営に対する意識を持ち、組織機能の評価、運営、コスト等を見直し、改善に努めます。
 - 5、各事業所において健全な経営と効率的な施設整備及び修繕に取り組みます。
 - 6、地域貢献事業を継続し、社会との関りを重視した事業運営に努めます。
 - 7、法人内（養護、特養、老健）の高齢者施設連携に向けた効率的な運営の実施に努めます。

- ◎今年度の重点目標
 - (1) 経営分析を行い、運営スタイルを見直す。
 - (2) 職員一人ひとりが、組織の活性化と経営に対する意識を持ち、運営体制や、コスト等の見直し、経営改善に努める。
 - (3) 人材の確保に最大限の力を注ぐ。
 - (4) 業務の充実を図るべく、日々の見直し、分析を実施する事に努める。

「笑顔溢れる最高の場（施設）を目指して」 ～緑ヶ丘ハイツ～

深刻な人材不足により、入所定員80名のところを現員60名で稼働している状況です。今年度は、人材確保を進め利用者70名以上の確保に向けて取り組みます。健全な経営状況に向かうべく早急に運営スタイルを大きく変更等ができるよう、実行に移していく大切な年にあります。給食業務を外部委託し大きな問題もなく一年が経過しました。今後も日々良質なサービスの提供に努め利用者の満足度向上へ向けた様々な対策を実施していきます。

- ◎今年度の重点目標
 - (1) 職員一人ひとりのスキルアップ及び専門性や課題発見能力の向上に努める。
 - (2) 職員一人ひとりのスキルアップ及び専門性や課題発見能力の向上に努める。
 - (3) 職員一人ひとりのスキルアップ及び専門性や課題発見能力の向上に努める。
 - (4) 職員一人ひとりのスキルアップ及び専門性や課題発見能力の向上に努める。



は一致団結し常に安心・安全を追求し、何事に於いてもやりがいを求めて一つひとつ前進し資質向上に努めてまいります。また、職員確保と利用者確保を同時に図るとともに、コストに基づいた事業の執行に努める所存であります。

「しあわせの合図はみんなの笑顔」

「しりべし学園」

【しりべし学園】

今年度は入所利用者24名でのスタートとなります。近年は知的障害は軽度でも、様々な生育

歴の中で二次的な障害を持ち入所に至るケースが多く、引き続きそれらの心情や障害特性を理解し、心に寄り添い、権利を守ることを大切にした支援を行います。

また、令和5年度末には最大22歳までの措置延長で、それ以降の過齢児を入所させておくことができなくなることから、社会に出る中で必要となるスキル、マナーを短期間で習得ルール、マナーを短期間で習得させ、各学校とも連携して卒業後に自分に合った進路を見出せるよう支援するとともに、関係機関との連携強化を図ります。

職員同士もお互いを理解し認め合い、生かし合うことを心がけ、それぞれの役割を明確にし、良いチームワークの中での職員の育成、定着に努めます。さらに、引き続き感染症対策を徹底し、安心・安全な生活を実践するとともに、その中でも出来る事に目を向け工夫し、可

能な限り児童の声に耳を傾け余暇の充実を図ります。

【南後志児童デイサービスセンター】

今年度も個別療育を中心に小集団療育を組み合わせ、様々な場面でのスキルアップやコミュニケーション能力の向上が図れるよう取り組みを工夫し行うとともに、関係機関との連携を図っていきます。

長年の懸案事項である新センター建設については、法人本部、三町村とも検討を重ね方向性を決め、早期の建設を目指します。

また、しりべし学園同様、感染症対策を徹底し、感染者がないように安心・安全な療育を実践します。



「利用者が自分らしく生活できるように」

「しりべし学園成人寮」

【しりべし学園成人寮】

本年度は生活介護の定員を60名に減員し、施設入所62名、生活介護58名でのスタートとなります。

今年度も利用者の権利擁護・虐待防止に重点を置き、不適切な支援、虐待の根絶には一層力を入れて取り組んで参ります。また、高齢化に伴う障がいの重度化は著しく、健診体制の拡充と職員の介護技術の習得を目指します。昨年度同様、歯科医と連携して、利用者の口腔ケアに努めます。昨年度、男子棟で新型コロナ集団クラスターが発生しましたが、感染対策を施す等、万全の態勢で工夫しながら、利用者さんに喜んでもらえる活動に取り組んでまいります。

【セオス】

本年度は26名でのスタートとなります。利用者の高齢化により、作業効率の低下が見られるため、作業内容の細分化、分業化を進め、利用者の状況に応じた作業の提供を図ります。また、商品の質の向上や製品のPR等から新規顧客の開拓に繋げてま

ります。町民から好評を得ている花の無料配布は継続して実施いたします。

【いずみホーム】

本年度は21名でのスタートとなります。利用者の高齢化が著しいため、高齢利用者が暮らしやすい環境整備を進め、利用者の意向に沿った支援を行います。自治会活動についても、体力や能力に応じた活動を行っていきます。

【黒松内つくし園特定相談支援事業所】

基本的にしりべし学園成人寮及び後志リハビリセンター利用者の計画相談を実施します。年2回のモニタリングを確実に実施し、



平均年齢64歳、平均障害程度区分は5を超えていました。この数値だけでは表せないADLや認知機能の低下により、介護・医療業務の負担は年々増加傾向にあります。利用者の機能低下予防のため、嚥下訓練や口腔ケアを継続して取り組んでまいります。

勤続年数の長い職員が多くなりましたが、一人ひとりが原点に返り、業務内容を見直し、最新の情報や技術を共有していくことで成長に繋げることが出来ます。

新型コロナウイルスを始め感染症にはこれまでの予防対策を継続しながら、利用者の皆様が安心して暮らすことが出来るよう、また生活が豊かになるための工夫に努めています。

『共に学ぶ』

「後志リハビリセンター」



育成と日常生活のサポート

- (1) 利用者の意思を尊重した個別支援計画策定と生きがいを感じられる活動や口腔ケア・嚥下訓練、機能訓練、栄養管理等の総合的な支援。
- (2) 利用者個々の理解度を再確認する研修体制の構築。支援に対する最新の技術・情報を共有し、業務レベルの向上に努める。
- (3) 利用者の権利擁護・成年後見制度の利用促進・地域との交流や地域貢献事業への積極的な取り組み。
- (4) 外国人技能実習生の計画的な受け入れを行います。また、職員の適正配置が出来るような体制づくりに努め、世代や性別、国籍の隔てなく働きやすい環境を整えていきます。

◎今年度の重点目標

1. 利用者一人ひとりが、心豊かで快適な生活が送れるよう努めます。（信頼関係の構築・生活歴・習慣に配慮した支援、しつかりとしたリハビリテーションの提供）
2. ご家族・利用者に安心・安全なサービス提供に努めます。（事故・リスクの軽減、しっかりととした感染対策、様々な災害対策）
3. 施設全体が明るく利用者が

区分は5を超えていました。この数値だけでは表せないADLや認知機能の低下により、介護・医療業務の負担は年々増加傾向にあります。利用者の機能低下予防のため、嚥下訓練や口腔ケアを継続して取り組んでまいります。

勤続年数の長い職員が多くなりましたが、一人ひとりが原点に返り、業務内容を見直し、最新の情報や技術を共有していくことで成長に繋げることが出来ます。

新型コロナウイルスを始め感染症にはこれまでの予防対策を継続しながら、利用者の皆様が安心して暮らすことが出来るよう、また生活が豊かになるための工夫に努めています。

◎今年度の重点目標

- (1) 利用者の意思を尊重した個別支援計画策定と生きがいを感じられる活動や口腔ケア・嚥下訓練、機能訓練、栄養管理等の総合的な支援。
- (2) 利用者個々の理解度を再確認する研修体制の構築。支援に対する最新の技術・情報を共有し、業務レベルの向上に努める。
- (3) 利用者の権利擁護・成年後見制度の利用促進・地域との交流や地域貢献事業への積極的な取り組み。
- (4) 外国人技能実習生の計画的な受け入れを行います。また、職員の適正配置が出来るような体制づくりに努め、世代や性別、国籍の隔てなく働きやすい環境を整えていきます。

◎今年度の重点目標

1. 利用者一人ひとりが、心豊かで快適な生活が送れるよう努めます。（信頼関係の構築・生活歴・習慣に配慮した支援、しつかりとしたリハビリテーションの提供）
2. ご家族・利用者に安心・安全なサービス提供に努めます。（事故・リスクの軽減、しっかりととした感染対策、様々な災害対策）
3. 施設全体が明るく利用者が

「多様なニーズに多機能なサービスで応える施設づくり」

「湯の里・黒松内」



授業の訪問、町内行事等への参加

今年度の基本方針は、利用者一人ひとりが心豊かで快適な生活ができるよう、利用者の意志及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立つて支援してまいります。老健施設として「多職種協働」「多様なニーズに多機能なサービスで応える」姿勢を継続し事業展開を適正に保てるよう努力してまいります。

地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い、市町村や保健・医療機関、その他の関係諸機関との密接な連携を図ります。さらに利用者及びご家族からの相談も親切・丁寧に対応し、皆様に信頼されるよう努力します。

◎今年度の重点目標

1. 法人内（養護・特養・老健）の高齢者施設の一休感のある連携に努めます。（個々の利用者に適した施設利用、高齢者部門の関係強化）
2. 職場体験（実習生・アッピング）
3. 職場体験（実習生・アッピング）
4. 職員間の良好な関係の構築
5. 職員一人ひとりが経営意識を持ち運営、コストに対する意識を高めます。（良好な信頼関係、信頼関係の構築と基本的な接遇マナー）
6. 職員一人ひとりが経営意識を持ち運営、コストに対する意識を高めます。（良好な信頼関係、信頼関係の構築と基本的な接遇マナー）
7. 施設機能の提供と地域貢献に努めます。

「いつしょに考え、やってみる」

「なぜ？」から始まる

昨年度は、前年度に引き続き

新型コロナウイルスのまん延による行動制限を受けつつも年間を通して柔軟な姿勢で行事や研修、ご家族対応を展開致しました。

特にご家族との関係性について、対面面会やユニット通信の発送、「ご家族との懇談会」の開催（十一月、三月と二回開催）など、慶和園を知っていた

した。

今後も先が見通しにくい時代

が続いていくことからも、この度策定した中期ビジョン（五ヶ年計画）に沿って「自ら考え行動できる」自律型職員の育成と

次世代幹部職員の育成研修を進め、柔軟性に富んだ事業運営を推進していきます。以上を踏まえ、2023年度の慶和園運営テーマを「いつしょに考え、やってみる。」「なぜ？」から始まるステップアップ」と定めます。

◎重点目標 ①利用者・ご家族の利用満足度の向上

・昨年度に引き続き、多職種協働による個別ケアを推進。各種育成研修を通じて根拠に基づくケアの取組みを浸透させます。

今年度は、新たな加算の算定（生活機能向上連携加算など）や

介護福祉士資格取得のための勉強会を開催し、専門職としての

スキルアップを図ります。

・年三回「ご家族との懇談会」

を開催し、ご家族との信頼関係

方法について率直なご意見（評価）をいただく機会とします。

・各ユニット、各委員会の組織

体制を強化。昨年度課題となつた誤薬事故や不適切な対応につ

いて改善します。

②地域における役割を具現化

・町内のセーフティネット施設として町内関係機関（京極町・

京極町社協・医療機関等）と協

働し、地域医療福祉介護体制（

地域包括ケアシステム）の体制

強化を図ります。

③柔軟な事業運営と経営の健全化

・在宅サービス（京極町社協・

地域包括支援センター・京極町）との連携と協働を目的とし「慶

和園地域連携推進会議」を定期

開催（年四回）。近い将来施設

と入所を希望される方の事前情報

収集（年四回）を行います。

・生活課題等）を把握すること

で、困難事例の受け入れのスム

ーズ化と入所ベットコントロー

ルの効率化を図り、入所稼働率

95%を目指します。

・夜警、日直業務の見直し（委

託契約の廃止）を図り、当園役

職者及びベテラン職員による施

設管理夜勤業務の導入と事務窓

口業務の効率化を進めます。

2023 (R5) ~ 2027 (R9)
慶和園中期ビジョン

ご利用者のあいわせ・・・ご本人・ご家族が始めて利用ご利用者・ご家族のために「自分で考え、行動を起こせる」観員あらゆる身柄・状況・申請に応じて、柔軟に対応できる組織・・・『地域になくてはならない慶和園』へ



交流・ボランティアの受け入れ
・ユニット企画へのご家族の参
加等）の展開を図ります。

④柔軟な事業運営と経営の健全化

・地域包括支援センター・京極町

地域の困難ケースの受け

入れバックアップ施設とし

て、あらゆるケースを想定。

受け入れ体制の柔軟化（職

員研鑽・施設の役割の再確

認）を図ります。

・コロナ禍明けの新たな地

域交流事業（地域住民との

割（看
園の役
務内
における
慶和
園）



R5.3.21 ご家族との懇談会

職種による個別ケアの取り組み、地域内における個別ケアの取り組み、

対応・ご家族との最期の時間などを向上させます。

・地域の困難ケースの受け入れバックアップ施設として、あらゆるケースを想定。

受け入れ体制の柔軟化（職員研鑽・施設の役割の再確認）を図ります。

・看取りケアについて「生活施設におけるお看取り」としてその質（ご本人の生活を尊重した

対応・ご家族との最期の時

間などを）を向上させます。

・地域の困難ケースの受け

入れバックアップ施設とし

て、あらゆるケースを想定。

受け入れ体制の柔軟化（職

員研鑽・施設の役割の再確

認）を図ります。

・コロナ禍明けの新たな地

域交流事業（地域住民との

R5.4 慶和園中期ビジョン

2023年度 倶知安地区スローガン「どる！」

「俱知安地区」

少数精銳の事業所においても定員の変更や新たな加算の取得、利用者に充実した支援の提供を行い、利用率の向上を図り、基本報酬の増加への取り組みを行います。

そのため、支援力の向上は必須であり、職員（人）としての質の向上と意思改革を図ります。介護保険サービス部門においては、慢性的な人員不足の状況を組織的に打破するため、収入源となるG.Hと訪問介護事業が協働運営を行い、連動した組織体制とすることで人員不足を解消し、事業の安定化を図ります。

「A.L.I.俱知安」の基本方針は、事業所間の垣根を取り払った事業運営を行い、今できることを最大限に行つた上で、短期間で経営及び事業の安定化を図ります。そのため、「利用者・地域からの信頼と信用」、「利用者確保・稼働率向上」「収益」あらゆるものを作ります。

障害サービス部門においては、



「誰からも慕われ、地域に根差した施設づくり」

「泊村むづみ荘」

考えております。

また、引き続き、利用者の「個人の尊厳」と「暮らしの継続」による施設運営も10年が経過しました。この間、利用者やご家族の皆様をはじめ、地域の関係者の方々に支えながら、業務を継続することできました。引き続き2028年までの5年間、施設の運営を担うこととなりましたので、今後とも健全な事業所運営に努めてまいります。

◎今年度の重点目標

- ①利用者との信頼関係の深化
- ②安全で安心な施設づくり
- ③健全な施設運営
- ④地域貢献推進への取り組み

以上、これらを確実に実践し、「誰からも慕われ、地域に根差した施設づくり」を推進します。

本施設では、本年5月から感染症法上の新型コロナ感染症の取扱いの変更に伴い、本施設において長期間に渡り、自粛をお願いしていまして対面による会や地域の皆様との交流事業の再開を順次再開していくたいと



「ユーフェイス集う 2023年度 辞令交付式」



4月1日、2023年度法人
辞令交付式がしりべし学園地域
交流スペース「ふらつと」にて
開催されました。

今年度は、施設長2名、法人
本部部長（施設長待遇）3名、
新規採用職員
10名が辞令書
を受け取りま
した。

大代貴輝理
事長の訓示の
後、代表の新
任職員しりべ
ました。

し学園の菊地涼音職業指導員か
ら「法人職員としての誇りと責
任を自覚し、一日も早く利用者
さんやご家族から信頼される職
員になるため日々努力を惜しま
ず、邁進します」と新たな出発
に向けた意気込みが伝わる誓い
の言葉がありました。

2023年度 辞令交付式



2023年度新任職員研修会

辞令交付式の後には、新任職
員及び2022年度に入職した

職員を対象に、新任職員研修会
を実施しました。



昨年度に引き続き、従来2日
間で行われていた内容を短縮し
て実施しました。

研修は大代貴輝理事長の挨拶
から始まり、創始者である元理
事長・廣瀬清藏氏の映像を交え
て、当法人が設立された経緯や
概要などが紹介されました。ま
た、将来的ビジョンや社会福祉
法人としての使命について、倫
理綱領の説明や、法人職員とし
ての心構え等の講義を行いました。
黒松内町からは、ゴミの分
別やリサイクル推進等の説明が

あり、皆さん熱心に研修を受け
ていました。半年後には研修会
で学んだことの検証を行ってい
きます。

2023年度 新任職員研修会

研修プログラム一覧

※敬称略

- ① 2023年度指針・重点目標
社会福祉法人黒松内つくし園
理事長 大代 貴輝

- ② 「法人の歴史・今後のビジョン
社会福祉法人としての使命に
ついて」
社会福祉法人黒松内つくし園
監事補佐 武井 光秋

③ 「倫理綱領についての理解」

- 理事
老人福祉施設慶和園施設
長 濵谷 剛
社会福祉法人黒松内つくし園
監事補佐 武井 光秋

④ 「法人職員としての心構え」

- 常務理事
しりべし学園成人寮施設
長 遊部 真澄
老人福祉施設慶和園施設
長 濱谷 剛

⑤ 「地域住民としての心構え」

- 黒松内町役場住民課
課長 出口 巧
老人福祉施設慶和園施設
長 濱谷 剛

⑥ 「新任職員フォローアップ研修」

- 「虐待防止についての説明」
法人研修委員会

主 任 大石 敏彦

巧

**岡久業務執行理事が退任
池田重人理事が新たに理事就任**

3月に開催された第43回理事会において、岡久孝雄業務執行理事の退任と池田重人理事の就任を決議し、同27日開催の臨時評議員会で理事改選案が承認されました。



岡久理事は、この3月で定年を迎えるため理事と黒松内つくし園施設長を退任する意向を固められ、ご本人の強い希望により6月任期満了の前での退任となりました。理事会終了後には大代理事長からねぎらいの花束を贈呈しました。写真。

された池田理事は、理事会終了後のあいさつで今後の抱負を述べられました。池田理事は、商店経営の傍ら黒松内町商工会長として地域経済発展に尽力されています。今後の当法人運営にお力を貸していただき、新たな体制で新年度がスタートします。

岡久理事は 昭和5年法人化後、法人本部や黒松内つくし園で様々な業務にあたり、創設者の故廣瀬清藏元理事長の後を受け平成23年から黒松内つくし園施設長として施設運営を司りながら、評議員を経て平成25年から理事として法人を支えていたいただきました。これからも黒松内つくし園そして法人運営にご助言いただきたいと思います。

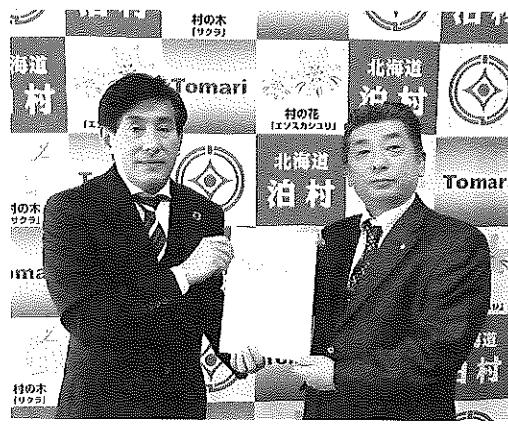
長い間大変お疲れ様でした。



社会福祉法人
黒松内つくし園 役員一覧

11年田のスター---

2013年は泊村より指定管理を受け、当法人が運営してきました泊村老人ホームむつみ荘は、この3月で10年が経過しました2023年4月から2028年3月までの5年間、引き続き施



「これから」の5年間、利用者の生命と生活を守り、良質な福祉サービスを提供し、健全な経営体制を築いてまいります。また地元自治体、関係機関、地域住民等との連携の維持を図り、泊村の社会福祉向上に寄与してまいります。これからも法人運営にご理解とご支援賜りますようお願い致します。

退任あいさつ



児童養護施設
黒松内つくし園
施設長
岡久 孝雄

この度、3月末日をもつて法人理事並びに施設長の職を退任することになりました。

昭和53年4月、法人では初めての本部職員として採用頂きました。昭和55年4月から児童指導員として43年間、通算で45年間勤めてまいりました。

この間、施設業務はもちろんのこと、時には本部業務を兼任しながら色々な時期・場面で法人にも関わり、理事会運営、施設整備や借入金申込み、決算業務、記念行事など、一施設職員としては経験できない貴重な体験をさせて頂きました。

そのお陰で、歴代の法人役職員・施設長など、多くの方々からもご指導を仰ぎ、本当に恵まれた環境にあり、確実に私自身の成長の糧になつていったと思つております。中でも、創設者の故廣瀬元理事長には、ご逝去される前日まで、直接、福祉・人生の「いろは」について、数え切れないほどのご教授を賜り

ました。

そして、悩んだり辛かつたりした時に、原点の黒松内つくし園で成長に関わってきた900余名の子ども達の姿に勇気づけられ、200名余の職員に支えて頂いたからこそ今日があると思っています。この45年間の様々な貴重な経験は、私にとつてかけがえのない一生の宝物になると確信しております。

結びに、これまで頂戴しました数々のご厚情に、心からお礼申し上げますとともに、引き続ぎ社会福祉法人黒松内つくし園に対しまして変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、退任の挨拶と致します。

新任あいさつ



児童養護施設
黒松内つくし園
施設長
藤田 剛

この度、岡久孝雄前施設長の後を受け黒松内つくし園施設長の職を拝命致しました藤田剛です。当施設は、昭和31年に法人で最初の施設として故廣瀬元理事長が創設した児童養護施設で

23年度に岡久前施設長が施設長に就任し、私が3代目の施設長となります。お2人が築き上げてこられた伝統と歴史を重んじ、黒松内つくし園の名を汚さぬよう尽力したいと思つております。お2人の足元には遠く及ばず、まだまだ未熟で不安の方が大きいですが、日々研鑽し施設長としての大役を務めていきた

いと思っております。

新たな船出となります、私の好きな言葉である「初心を忘れず」に、基本は子ども達が安心・安全な生活が送れるように職員一同で取り組み、子ども達と職員の笑顔が絶えない施設運営に心掛けてまいりますので、ご家族や関係者の皆様のご理解とご支援を心からお願い申し上げまして就任の挨拶とさせて頂きます。今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ致します。

初代の施設長でもあつた廣瀬元理事長の後任として、平成に就任しました岡久健一です。当施設は法人2番目の施設として昭和36年に開設した歴史のある施設です。故稗田靜男元施設長、津田利幸元施設長をはじめ歴代施設長並びに、歴代職員の方々が築き上げてこられた緑ヶ丘老人ホームの施設長という職責の重大さに大きな緊張と責任を感じているところであります。

ですが、歴史のある施設を継承し、職員一丸となり利用者の皆様が安心、安全、笑顔で生活ができる、多くの皆様から愛される施設となるよう、微力ではありますが、一生懸命努力してまいります。あわせて、昨年度当施設で発生しました新型コロナワイルスのクラスターにおきましては、利用者の皆様、ご家族の皆様には多大なご迷惑、ご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。今後も感染対策に万全を期し、感染症発生防止に努めて参ります。利用者の皆様及び関係機関の皆様におかれましては、今後も引き続き緑ヶ丘老人ホームに対して御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新任あいさつ



養護老人ホーム
緑ヶ丘老人ホーム
施設長
岡久 健一

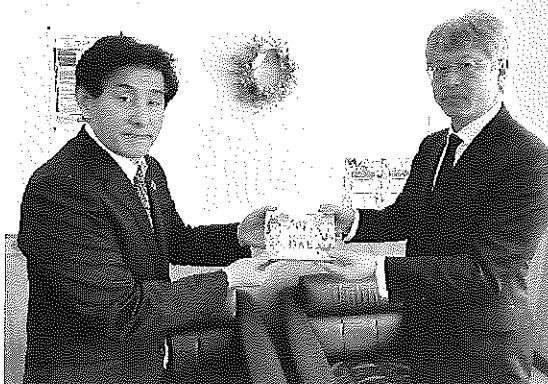
この度、岡久孝雄前施設長の後を受け黒松内つくし園施設長の職を拝命致しました藤田剛です。当施設は、昭和31年に法人で最初の施設として故廣瀬元理事長が創設した児童養護施設で

この度、4月1日付けで吉田事長が創設した児童養護施設で

この度、4月1日付けで吉田施設長の後任として養護老人ホー

SDGs 地球環境へ配慮！ リサイクルねんどを子ども達へ

当法人では、黒松内小学校、白井川小学校の新1年生12名に環境に優しい「ねんど」を寄贈するため、黒松内町教育委員会に進呈しました。



網走郡大空町にある㈱まゐらすという会社が、「おもちゃからはじまる森里川海の自然循環プロジェクト：みんなのねんどプロジェクト」と題して、国産の食品（廃材等）を主原料とした「ねんど」を商品化し、あそびからフードロス、地球環境保護の大切さを知つてもらおうと

昨年7月に当法人も「SDGs宣言」を行い、その活動の一環として、環境への配慮に向けた取り組みとして、また地域の子ども達にも思いを伝えたいと考えプレゼントしました。今後もSDGsと社会貢献への取り組みを続けてまいります。



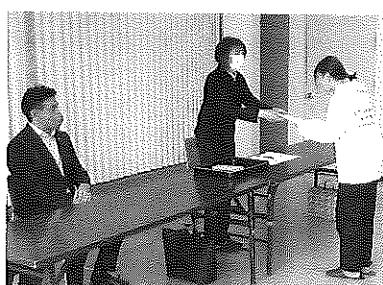
森、野菜や魚など生物の栄養となつて、再び私たちのもとへ戻ってきます。

昨年7月に当法人も「SDGs宣言」を行い、その活動の一環として、環境への配慮に向けた取り組みとして、また地域の子ども達にも思いを伝えたいと考えプレゼントしました。今後もSDGsと社会貢献への取り組みを続けてまいります。

網走郡大空町にある㈱まゐらすという会社が、「おもちゃからはじまる森里川海の自然循環プロジェクト」と題して、国産の食品（廃材等）を主原料とした「ねんど」を商品化し、あそびからフードロス、地球環境保護の大切さを知つてもらおうと

4月29日、黒松内つくし園の地域交流スペースで法人の奨学金贈呈式が行われ、16名の高校生（つくし園児童15名）が出

席し、奨学金を受け取りました。この3年間はコロナ禍のため贈呈式を行うことができませんでしたが、4年ぶりに高校生が集まって直接奨学金を手渡すことができました。



ははじめに大代理事長より、この奨学金誕生の経緯や歴史、奨学金の原資には多くの皆様のご厚志で賄われていることなどについて説明がありました。また、松田順子奨学金委員長から高校生に、多くの人々に支えられること、未来の夢や目標に向かって一步

を対象に、延べ1,007名に総額3,160万円が支給されています。この奨学金は未来ある子ども達の勉学や進学資金として役立てられています。

奨学資金を寄付して下さった皆様、心より感謝申上げます。また、当法人の社会貢献事業「奨学資金制度」に賛同している方のご協力を願い致

作製しています。あそび終わつたねんどは畑や海に戻り、木や草を掛けられました。最後に受給者を代表して高校3年生（男子）が感謝の言葉を述べました。



れました。

その後、松田委員長より受給者一人ひとりに奨学金が手渡され、「がんばって下さい」と声を掛けられました。最後に受給者を代表して高校3年生（男子）が感謝の言葉を述べました。

高校生16名の未来へ向けて！ 4年振りに奨学資金贈呈式開催

4月29日、黒松内つくし園の地域交流スペースで法人の奨学金贈呈式が行われ、16名の高校生（つくし園児童15名）が出



法人会務の運営状況

(2023年1~4月開催分)

- ◆1月11~17日 資金收支ヒアリング
- ◆1月17日 施設長・副施設長会議
- ◆1月24日 リスクマネジメント委員会
- ◆1月25~27日 あすの監査法人期中往査
- ◆1月30日~2月3日 第3四半期内部監査
- ◆2月8日 第3四半期監事監査
- ◆2月14日 施設長・副施設長会議
- ◆2月15日 法人本部振興局指導監査
- ◆2月16~17日 昇格等審査委員会
- ◆2月17日 苦情解決委員会
- ◆2月20日 事務担当者ミーティング
- ◆2月21~23日 資金収支ヒアリング
- ◆2月27~28日 給与算定期会議
- ◆3月9日 研修委員会
- ◆3月10日 第430回理事会
- ◆3月14日 施設長・副施設長会議
- ◆3月21~23日 あすの監査法人期中往査
- ◆3月27日 第55回評議員会
- ◆3月28日 第431回理事会
- ◆3月29日 辞令交付式・新任職員研修
- ◆4月1日 施設長・副施設長会議
- ◆4月11日 苦情解決委員会
- ◆4月12日 事務担当者ミーティング
- ◆4月25日 リスクマネジメント委員会

ご厚志に心から感謝申し上げます

(令和4年12月1日から令和5年3月31日まで)敬称は略させていただきます。

お詫びとご案内

社会福祉法人黒松内つくし園会報「ブナの里」では、これまで法人へのご厚志をいただきました皆様のご芳名を掲載してきましたが、個人情報保護の観点から、個人の方からのご厚志の紙面掲載を控えさせていただいております。当法人へのご厚志に感謝申し上げますとともに、ご芳名のご公表を控えさせていただきますことに心よりお詫び申し上げます。昨今の個人情報流出防止等への対応となりますので、どうぞご理解のほどよろしくお願ひ致します。

洞参寺、黒松内つくし園後援会、黒松内郵便局、2022年度卒園児保護者一同、黒松内つくし園職員互助会（以上黒松内町）、有光錢商店（長万部町）、北海道信用金庫ひまわり財団（札幌市）、一円募金

ふるさと納税で車椅子が寄贈されました！



黒松内町のふるさと納税「町内の福祉施設へ車いす1台を寄贈」に対する寄付があり、黒松内町より当法人の町内老人福祉施設3ヶ所に4台の車椅子が寄贈されました。

感染対策のため、黒松内町長から施設への贈呈式は開催できませんでしたが、

3月中に各施設に納品され、施設職員・利用者から感謝の言葉をいただきました。

編集後記

2023年度が始まりました。あつという間に2022年度が過ぎ去つてしましました。今年度もこれから決算業務に追われながら、会報編集作業もスタートします。今年度は財務・会計業務はシステム変更やインボイス制度開始と多忙を極めます。しっかりと新たな業務構築に取り組んでいきたいと思いま

す。新型コロナ感染は今年5月からインフルエンザ感染等と同格になるようですが、福祉施設ではまだまだ脅威です。行事やイベント、会議等は徐々に通常開催に戻っていくと思われますが、マスク着用などは当面継続されるでしょう。

ガソリン・灯油価格は高止まりで、食品・備品その他あらゆるもののが物価高騰し、さらに電気料金の大幅な値上げは、施設運営はもちろん家計への影響はかなり深刻です。我が家も子ども2名が一人暮らしとなり、仕送りとやりくりに必死です。国の援助や企業努力を切に願います。本年度も各施設広報委員が施設広報誌の作成に一生懸命取り組みます。法人ホームページも、掲載内容の充実を図り、より良い情報発信を行っていきます。当法人会報ブナの里と広報委員会をどうぞよろしくお願い致します。

岡田

**認定こども園黒松内保育園
胸を張つて小学校へ！感動の卒園式**



卒園児合唱は、「きょうは雨だけ
ど、明日は晴れて元気になる！」
という子ども達の心情にピッタリ



3月18日、第56回卒園式で年長
ばんだ組12名が黒松内保育園を巣
立つていきました。

卒園証書を受け取り「大きくな
つたら〇〇になりたいです！」と大きな声で将
来の夢を語る姿は、どの子も希望
に輝いていました。

各クラス担任を先頭に花のアーチをくぐり保護者と手をつなぎ入場する姿は、嬉しいような少し恥ずかしいような表情を見せていた
子ども達でした。いつもと違う雰
囲気の中で泣いてしまう子もいま



4月8日に第57回入園・進級式を行いました。今年度も感染拡大防止のため参加対象を入園・進級児と保護者のみとさせていただきました。

**泣いて笑つて！
新しい出会いの入園式**

な歌詞の「にじ」。その元気な歌声がお遊戯室いっぱいに響き渡り、会場では保護者の皆さんが子ども達の立派な姿に涙が溢れています。これからも胸を張つて小学校へ通い、成長していく下さい。応援しています。



今年度は、10名の新園児を迎え
総勢63名でスタートを切りました。
たくさんの笑顔と成長していく姿
が楽しみです。



法人会報「ブナの里」第140号

発行年月日 令和5(2023)年4月30日発行
発 行 者 社会福祉法人 黒松内つくし園
発行責任者 法人会報ブナの里広報委員会

社会福祉法人
〒048-0101

黒松内つくし園

北海道寿都郡黒松内町字黒松内562番地1

電話:0136(77)2833 FAX:0136(75)7211

E-Mail: honbu1@viola.ocn.ne.jp URL:<https://tsukushien.or.jp>